

タイ夏期英語研修報告書

人文社会学部 人文学科 表象文化論コース

2年 丸尾 奏

研修先での学習

英語の授業は、レベル別で2クラスに分かれて1クラス7~8人で行った。基本的には、午前中に会話の授業が3時間あり、午後にプレゼンテーションの授業が3時間あったが、週に数回チェンマイ大学の学生と合同の授業もあった。それぞれの授業を別々の先生が担当し、学習内容や授業の進め方は先生によって様々であった。私のクラスは、会話の授業では文法・イデオム・発音を中心に勉強し、ゲームやペアワークを行った。プレゼンテーションの授業では、人前で話し方や、スピーチの組み立て方を勉強し、毎回短いスピーチをしたり、ディスカッションを行った。授業を受けた際の反省点としては、通常の授業は首都大生だけで行われていたので授業中ずっと英語を使うことが難しく、日本語で話してしまう場面が多くあったので、日本人同士でも英語を意識的に使うようにした方が英語力の向上に繋がったのではないかと思った。

また、週に1回タイ語の授業があり、挨拶や買い物の時に使えるようなタイ語を教わった。授業の後半はスピードが早く、難しかったので実際に実践で使えることができたのは数字と挨拶くらいだったが、タイの文化に触れることができた授業だったのでとても良い経験になった。

現地の生活

現地では、ホームステイやスコータイの滞在以外は、首都大生はみんな同じ学校近くのサービスアパートメントに滞在しており、チェンマイ大学の学生だけでなく、首都大のメンバーとも仲を深めることができ、安心感もあった。チェンマイ大学のバディや、一緒に授業を受けた学生はとても優しく、仲良くしてくれて、学校終わりに夕飯に連れて行ってくれたり、休日はマーケットやショッピングモールに連れて行ってくれるなど、様々な場所に案内してくれた。みんな英語がとても上手なので、一緒にいてたくさん話すことで勉強にもなった。

タイでの生活で一番心配していたことは食事の衛生面だったが、私自身は特に食べ物に当たることはなかった。屋台で出される飲み物に入った氷に気がつけた方がいいと日本では言われていたが、氷で何か問題があったこともなかった。

た。しかし、衛生状態がとても悪いのは事実なので、特に屋台で食事をするときは、しっかり火の通ったものを食べるなど十分注意する必要があると思う。辛いのが苦手なので、食事で一番辛かったのはとにかく辛いものが多いことで、辛いものを食べた翌日にいつもお腹を壊していた。

最後に

タイの公用語はタイ語なので、みんなが英語を喋っているわけでもなく、訛りも強いので、英語を勉強することだけに焦点を当ててしまうと、正直他の国でもいいような気がしてしまう。しかし、研修の内容が充実していて、他にも得たものはとても多く、また、現地の人々が優しいので、本当にタイ研修に行ってよかったと思っている。特に、タイバディの存在が大きく、本当に親切にしてくれて、帰るのが嫌になるくらい仲良くもなれた。この研修に参加したことで、英語がとても苦手な私も英語での会話を楽しむことができ、もっと勉強したいというモチベーションにもなった。様々なことが経験でき、たくさんのもので充実した濃い1ヶ月だった。